

教務厚生常任委員会所管事務調査報告書

1. 調査年月日

令和4年7月20日（水）午後1時30分～午後3時50分

2. 所管事務調査項目

- (1) 高山社跡保存整備事業について【教育委員会文化財保護課】
- (2) 鬼石病院地域連携医療センターについて【鬼石病院事務課】

3. 調査選定理由

(1) 高山社跡保存整備事業について

高山社跡については、世界文化遺産登録をされてから7年が経過したこともあり、また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、観光客が減少している現状であるが、創始者である高山長五郎氏の養蚕飼育技術の改良により、大量の飼育が可能になった重要な飼育技術の発祥地である。この飼育技術の発祥地と研究を行った施設がある藤岡市は、今後も適切な管理を行うという責任があると考えため、「高山社跡保存整備計画」がどのように行われているのか確認したく、本調査を実施した。

(2) 鬼石病院地域連携医療センターについて

近年、鬼石病院の運営については、医師不足により医療の崩壊や医療圏の人口減少による患者数の減少で病院運営が厳しいとのことだったが、令和3年4月から地域連携医療センターを始動して地域の関係機関と連携し、活性ある病院運営に取り組んでいるとの報告があった。所管委員会としては、どのような取り組みを行っているのかを確認したく、本調査を実施した。

4. 調査内容

高山社跡保存整備事業について

(1) 保存修復工事实施の理由と目的

母屋西側平屋部分は江戸時代後期、二階建て部分は1891年建築であり、母屋兼蚕室は、少なくとも築後130年以上経過している。そのため、経年劣化、白蟻虫害などで老朽化が著しく、見学の際の安全性を確保するためにも修理及び耐震補強が必要な状態となっている。

高山社跡の価値をより明確に伝えるため、高山社跡が分教場として稼働し、模範的な蚕室構造が維持され、養蚕教育機関としての役割を發揮していた時期（1891～1927）に戻す必要があり、分教場としての使用が終了した1927年以降に改変された部分は、元の姿に戻す。そのためには、いつ、どのような改修が行われたかを修理に伴う調査で明確化し、また（文献などと）根拠づける必要がある。



分教場時代（撮影年不詳）



現況（2021年3月）

(2) 現状について

○母屋兼蚕室修復工事の工程

令和3年7月	工事、監理業務の契約。(19日) 契約業者 工 事：株式会社 町田工業 監理業務：有限会社 ウッドサークル
令和3年8月	足場、素屋根設置。
令和3年9月	電気設備、水道、浄化槽、火災報知機などを撤去。
令和3年10月	屋根解体開始。(屋根の解体は断続的に令和4年5月まで実施)
令和4年1月	水回り及び新建材、建具など解体、運び出し開始。(2月まで)
令和4年3月	壁落とし開始。(5月まで) 小屋組解体開始。
令和4年7月	軸部解体、床組解体開始。

- ・屋根、壁材の解体が完了。今後、床組、軸組、小屋組が連動して解体され、最後に土間コンクリートが解体され、工事の第1段階が完了する。その後、足場や素屋根が解体され、機材が搬出されるのが令和4年10月になる予定。
- ・工事後の令和4年秋には発掘調査を実施。

(3) 今後の計画

○工事計画

令和4年度	母屋兼蚕室修復・補強実施設計。 地形測量、発掘調査実施。
令和5年度	母屋兼蚕室修復・補強(第2期)工事。(主に木工事を実施)
令和6年度	母屋兼蚕室修復・補強(第3期)工事。 (主に基礎工事、軸組工事を実施)
	高山社跡修景整備実施設計。
令和7年度	母屋兼蚕室修復・補強(第4期)工事。(主に屋根工事を実施) 高山社跡修景整備(第1期)工事。
令和8年度	母屋兼蚕室修復・補強(第5期)工事。(主に壁工事を実施) 高山社跡修景整備(第2期)工事。工事完了。
令和9年度	母屋兼蚕室修復・補強(第6期)工事。工事完了。 (主に建具工事、外構工事を実施)

○工事見学会、工事見学イベントなどの周知啓発事業の実施。

○シルクカントリー群馬実行委員会「絹ラボ」による世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の調査研究、人材育成事業。

○「藤岡かがやきプロジェクト」の推進。高山社顕彰会など市民団体との連携事業。

(4) 所感

初めに机上説明を受け、現在まで取り組んでいた石垣の修復や入口となっている長屋門の修復について作業が完了しているとの説明を受けました。昨年度からは、母屋兼蚕室の修復及び補強工事に着手をしているとの説明を受け、作業中の現場調査を行いました。

作業としては、建築されている建物の構造を確認しながら分解を行い、詳細な構造図を作成していました。建物の分解を行うことで外見では見えない箇所が確認でき、建物の沿革が推測できるとのことでした。今後は、構造図や痕跡調査等で得たデータを基に PC で管理が出来るように作りあげて行くものだと思います。データを利用して、観光客への説明やネット上でアクセスができる成果にはなるとは思いますが、さらに研究を重ね、市内の子供たちが藤岡市の歴史として「高山長五郎氏」の偉業を学べる教材にも使えるような成果品にしていきたいです。

偉人「高山長五郎氏」を知ることで、藤岡市は世界へ広げた養蚕の技術の発祥地であり、今も技術が継承され、世界で養蚕が行われていることを伝えたいと思います。「誇れる藤岡」をしっかりと繋ぎましょう。今後の取組みに期待いたします。



高山社跡にて説明を受ける



高山社跡長屋門前

鬼石病院地域連携医療センターについて

(1) 概要について

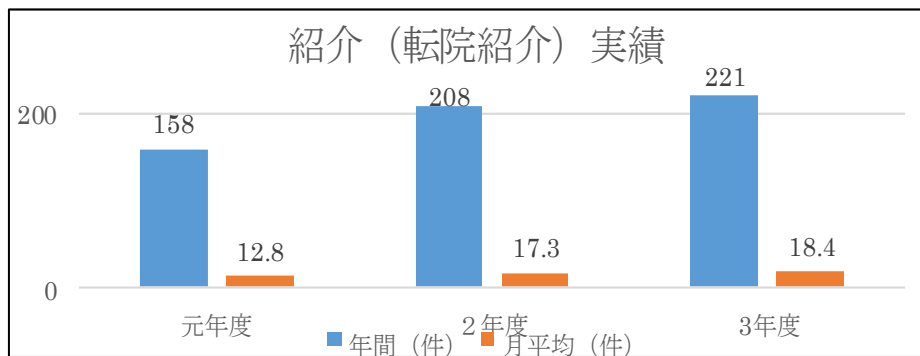
地域連携医療センターは令和3年4月、地域の患者様や地域の医師等の医療関係者が、「安心の医療」や「相談」が受けられる組織として、鬼石病院内に新たに設置された。
(現：地域医療連携室の上部組織)

患者様が不安なく慢性疾患の治療や療養をしていただけるよう、近隣の病院や診療所と様々な情報を共有し、患者様の入退院の調整及び診療を行う。

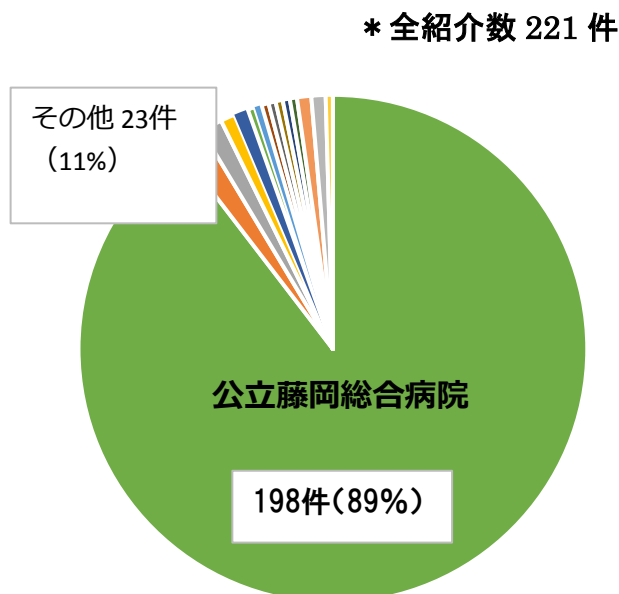
倉林医師はセンター長として週3日の診療のほか、県内外の医師等の医療従事者に向けた講演会や相談会等を積極的に実施し情報提供を行い日本の医療の進歩に尽力している。

(2) 現状について

○入院 紹介患者数 (受け入れ患者)

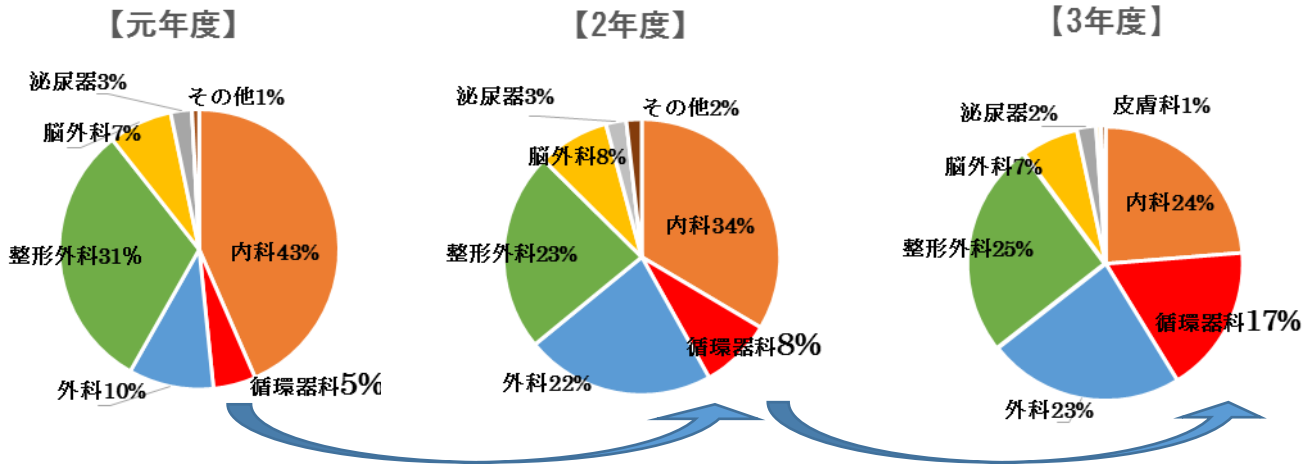


○入院 紹介元医療機関



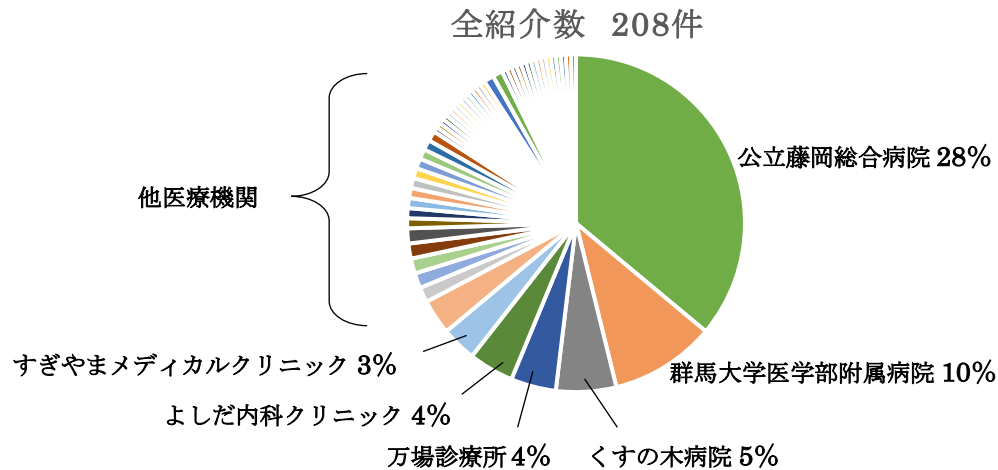
群馬県内	件数
公立藤岡総合病院	198
高崎総合医療センター	4
光病院	3
群馬大学医学部附属病院	2
前橋赤十字病院	2
篠塚病院	1
くすの木病院	1
伊勢崎市民病院	1
老年病研究所附属病院	1
済生会前橋病院	1
群馬中央病院	1
その他 (クリニック等)	1
県外	
本庄児玉病院	2
鈴木外科病院	2
青木病院	1
合計	221

○入院 診療科別分類



・増加傾向にある中で、特に倉林センター長の専門である循環器科の紹介が増加。

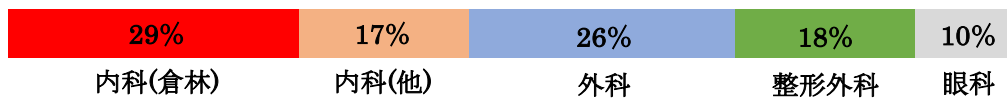
○外来 紹介元医療機関 (受け入れ患者)



群馬県内 医療機関	件数	群馬県内 医療機関	件数
公立藤岡総合病院	75	小山医院	2
群馬大学医学部附属病院	21	中島整形外科	2
くすの木病院	12	田中眼科	2
万場診療所	9	高崎佐藤眼科	2
よしだ内科クリニック	9	前橋赤十字病院	1
すぎやまメディカルクリニック	7	黒沢病院	1
老人保健施設かみかわ	7	角田病院	1
群馬中央病院	3	しののめクリニック	1
篠塚病院	3	光病院	1
昭和病院	3	秋山医院	1
吉井診療所	3	県立がんセンター	1
いとう眼科	3	細谷たかさきクリニック	1
高崎総合医療センター	2	公立七日市病院	1
前橋済生会病院	2	藤生皮膚科	1
高瀬クリニック	2	星野医院	1
北関東循環器病院	2	清水内科 (高崎市)	1
善衆会病院	2	しらすぎの里	1
深沢内科医院	2	藤岡保健所	1
小計	189		

県外 医療機関	件数
青木病院	2
鈴木外科病院	2
本庄児玉病院	1
うめだクリニック	1
関根内科外科医院	1
根岸医院	1
吉澤クリニック	1
吉田医院	1
松沢医院	1
たにかわ眼科クリニ	1
石井クリニック	1
朝霞医療センター	1
川口誠和病院	1
したら眼科	1
本庄ナーシングホ	1
中林歯科	1
春山眼科	1
小計	19
合計	208

○外来 紹介患者の診療科別割合 (受け入れ患者)



○医師や医療スタッフへの情報提供

- ・学術講演会・WEBセミナー等の演者・座長として参加。

(3) 今後について

市内に公立病院が2か所ある強みを生かし、公立藤岡総合病院の後方支援病院としての連携をさらに強化し、それぞれの機能を生かした役割を果たす。

また、地域連携医療センターを中心に、他の医療機関や高齢者施設、在宅患者との窓口となり、地域包括ケアシステムの一翼を担う。

市立病院の使命として、この地域で住民が安心して生活していける医療環境を整備し、健康保持に必要な医療を提供していく。

(4) 所感

今回、教務厚生常任委員会が所管調査を実施しました「鬼石病院地域連携医療センター」については、工藤通明病院長、倉林正彦センター長、担当部署より説明を受けました。取組みについては、地域連携医療センター長の着任後、患者さんが不安なく慢性疾患の治療や療養が出来るように病院や診療所との情報を共有して、患者さんの入退院の調整や診療を行っているとの説明がありました。

また、倉林正彦センター長は県内外の医師や医療従事者に向けた講演会や相談会等を積極的に実施し、情報提供を行うことで地域医療での第一人者としての認識を広め、信頼を高めている現状でした。このような活動により、医師や患者さんからのニーズが増え鬼石病院への患者さんの受け入れ実績が伸びており、病床稼働率が増えているとの説明を受けました。

今後は、高齢化社会の中、鬼石病院が果たす役割としては、地域病院との連携や在宅患者の窓口や相談により、患者さんが安心して生活ができる地域づくりであります。是非とも取組んで頂きたいです。



鬼石病院にて説明を受ける



鬼石病院前

以上のとおり、報告致します。

令和4年8月15日

経済建設常任委員会

委員長 野口 靖

副委員長 丸山 保

委員 関口 茂樹

橋本 新一

冬木 一俊

針谷 賢一